

教科「書道Ⅰ」

1. 学習の到達目標と評価の観点

科目 芸術 教科 書道Ⅰ	単位数 2 単位	学年 第 1 学年	教科書 書道Ⅰ 東京書籍
学習の到達目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
評価の観点	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 〈知識・技能〉		
	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 〈思考・判断・表現〉		
	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 〈主体性〉		

【評価】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの..... 80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの 60%
- D：未提出、未実施 0%

2.学習計画及び評価方法

	単元	学習のねらい	評価の観点及び内容
一学期	書写の復習 ・用具用材 ・姿勢執筆法 漢字の書の学習① ・古典の臨書(楷書) 「九成宮醴泉銘」 「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」 「自書告身」 「牛橛造像記」 漢字の成立 ・篆書の学習 ・篆刻の学習 創作	中学校書写で学習したことの確認 ・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。 ・基本の姿勢、執筆法、後片付けについて、目的に合わせて多様な方法があることを理解する。 臨書の意味や方法を学習し、古典を臨書する意義について理解する。 ・楷書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。 ・楷書の特徴を理解する。 ・楷書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 ・楷書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 漢字の成立と変遷について理解する。 ・篆書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。 ・篆書の特徴を理解する。 ・篆刻 創作の手順に従い、漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作し、相互評価をする。	・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・落款の用途と表現効果との関わりについて理解してしたい。

二 学 期	漢字の書の学習② ・ 古典の臨書 「蘭亭序」行書 「真草千字文」草書 「曹全碑」隸書 仮名の書の学習 ・ 仮名の成立 ・ 単体 ・ 変体仮名 ・ 連綿 ・ 古筆の臨書 生活の中の書道 ・ ハガキ	・ 行書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。 ・ 行書の特徴を理解する。 ・ 草書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。 ・ 草書の特徴を理解する。 ・ 隸書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。 ・ 隸書の特徴を理解する。 仮名の成立変遷について理解する。 ・ 仮名の用具・用材の特徴について理解する。 ・ 仮名の基本的な線について理解し、練習する。 ・ 平仮名の単体の特徴について理解し、練習する。 ・ 変体仮名について理解し、練習する。 ・ 連綿について理解し、練習する ・ 平安時代の代表的な古筆を臨書する意義について理解する。 ・ 古筆を鑑賞し、その美について理解する。 ・ 古筆の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 ・ 便箋や封筒の宛名、履歴書など、改まった場面で使われる書式について理解し、場面に応じて書く。 ・ はがきやカードなど、身近な場面で気持ちを伝えるために書くものについて理解し、自分たちの創意を生かして書く。	・ 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・ 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・ 古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 ・ 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・ 線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・ 古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・ 連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。 ・ 書道を生活に広げる表現効果を理解している。 ・ 用途にあった用筆・運筆の技術を身に付けている。
----------------------	--	---	---

三 学 期	漢字仮名交じりの書の学習 ・表現を比べよう 表現の工夫 1 古典を生かした表現 2 線による表現の広がり 3 用具・用材による表現 4 紙面構成 1 年間のまとめ ・色紙作品制作 ・和綴じ	・古典の特徴を生かしたり、用具・用材の使い方や種類を変えたりすることで表現に変化をつけられることを理解する。 ・文字の大きさや配列など、紙面の構成を工夫することで表現に変化をつけられることを理解する。 ・書き方の工夫によってさまざまな表現ができることを理解し、どのような表現をしたいかという意図に合うかどうか考える。 ・創作の手順に従い、表現の工夫で学んだ技法を生かして、意図に基づいて創作し、相互評価をする。	・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。 ・1 年間学習したの事を理解し、技能を身につけて、表現することができている。 ・日本の文化を理解している。
-------------	---	--	---

3.学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
〈知識・技能〉 古典・古筆の特徴を理解し、技能を身につけている。	授業の様子や提出物
〈思考力・判断力・表現力〉 学んだ技能を生かし、自己を表現できている。	授業の様子や提出物
〈主体性・多様性・協働性〉 技能を身につけるために、積極的に練習している。 また、表現するための事前準備をしてきている。	事前準備や授業の様子

【提出物状況の評価基準】

A:期限を守り、課題を理解している提出内容。

B:期限は守れたが、課題を理解していないと思われる提出内容。

C:期限以降に提出。

D:未提出。